

(法第 28 条第 1 項関係様式)

平成 25 年度事業報告書

(平成 25 年 4 月 1 日から平成 26 年 3 月 31 日)

特定非営利活動法人 みやざき教育支援協議会

1. 事業の成果

教育の ICT 化を強力に推進していくためには、教育の情報化による効果を明らかにすると同時に、課題を抽出し、それに対する対応策を検討していく必要があります。

学校現場の苦労や悩みを共有することから始まった「教育 ICT 研修会」は、2009 年度から 2013 年度まで延べ 30 回を越え、471 名の方が参加してきました。そのなかで明らかになってきたことは、先生方の授業力が基礎になること、ICT 機器を過信しないこと、インフラ整備と外部支援員が必要なことなどでした。

その成果をさらに現実のものとしていかなければなりません。2013 年 10 月から ICT 支援員を宮崎大宮高校に配置し、学校のサポートを行うことになりました。また、研究会や学校の Web サイトの支援も少しずつ担当することになりました。ただ、そのスタッフ不足により、現場からの要求に十分応えることができておりません。ICT 支援員の育成がさらに喫緊の課題となっています。

文化交流事業として行った宮崎公立大学ネットワーク研究室との共同研究「高校生による聞き書き地域防災ーぴ〜すけハイスクール」は、高校生と大学ゼミ生を中心に熟議や聞き書きなどを通して、若者が地域や防災に関心を持つ機会にもなりました。

参考書デジタルガイド制作は地元ソフト会社と現場教職員の協力で成果物を得ることができ、収益事業として今後の活動に大きく寄与することになりました。

広報活動については「メスカジャーナル」が未発行になり、Web サイト更新も含めて十分ではありません。スタッフ不足を解消するため、シニアサポーターや若者サポートステーションとの連携の道を探りました。今後、スタッフの育成と並行して、幅広いボランティアの結集が望まれます。

2. 事業内容

(1) 特定非営利活動に係る事業

① 教育の情報化を図る調査研究活動

ア 教育 ICT 研修会（成果については Web サイトに掲載）

- 第 1 回 5 月 15 日（水）「Google Sites を利用した授業」参加者 14 名
小坂 征史 氏（宮崎赤江まつばら支援学校）
- 第 2 回 7 月 10 日（水）「iPad 活用による体育の授業」参加者 10 名
森 億 氏（宮崎大宮高等学校）
- 第 3 回 9 月 11 日（水）「カード式要援護者支援ぴ〜すけ」参加者 9 名
辻 利則 氏（宮崎公立大学）
- 第 4 回 11 月 13 日（水）「教育現場におけるシンクライアントの有効性」参加者 18 名
小島 敏也 氏（㈱ケーシーインターナショナル）

- 第5回 1月15日（水）「教育現場へのICTの導入と利活用支援」10名
田中 康平 氏（榊学映システム）
- 第6回 3月12日（水）「超高速検索ソフトXDIRの開発」16名
武石 秀男 氏（MESCC会員）

② 教育現場の情報化を支援する活動

ア 「桐およびスクールプロ講習会」参加者延べ11名（講師延べ6名）

- 実施時期 10月5日、12日（土）宮崎公立大学

イ ICT支援事業（宮崎大宮高校）

- 実施時期 平成25年10月～平成26年3月

ウ Webサイト支援事業（事務職員協会、宮崎大宮高校）

③ 文化交流事業

ア 「リアル熟議 in みやざき」

- 実施時期 平成25年7月28日、12月21日
- 実施内容 第1回び～すけハイスクール・カフェ（宮崎市）32名
第2回び～すけハイスクール・カフェ（宮崎市、延岡市、都城市）47名
- 成果物 冊子『語り継ぐ災害体験』（高校生による聞き書き地域防災）

イ 参考書デジタルガイド制作

- 実施時期 平成25年4月～平成26年1月
- 実施内容 教科書会社、教材コンテンツソフト会社との協働事業
- 成果物 参考書デジタルガイドCD制作

ウ 広報活動「情報誌メスカジャーナル」

- 実施内容 未発行